

## [006] 九州大学低温センターだより表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/24695>

---

出版情報：九州大学低温センターだより．6，2012-03．九州大学低温センター  
バージョン：  
権利関係：

## 巻頭言

低温センター発足から6年が過ぎようとしています。特に、工学系の伊都キャンパス移転と期を一にして、新キャンパスでの寒剤供給体制の整備促進を進めてきました。幸いに、工学系の第1期移転からほぼ1年遅れではありましたが、平成19年4月に低温センター伊都地区センターが発足し、液体ヘリウムの本格的な供給ができるようになりました。現在、第2期移転後の慌ただしさも収束し、新しい寒剤利用の仲間も段々増えてきています。また、理学系の第3期移転に向けまして、伊都地区での設備や寒剤の配送体制について検討を始めています。伊都地区センターにあります液体ヘリウム供給設備の中で液化装置につきましては、理学・農学系の移転後にも対応できる能力が確保されていると考えています。一方で、使用後のヘリウムガスの回収・精製・貯蔵装置については、第3期移転後のユーザーの急激な増加と各ユーザーの使用量の増加により処理能力の限界を超えることが予測されます。このために、この回収・精製・貯蔵装置の増強に向けた概算要求を準備中です。各部局の移転後にも、安定した使いやすい寒剤の供給体制を維持していきたいと考えています。

下図は、概算要求の資料に掲載しますデータの一部で、液体ヘリウム供給量の年度推移を示しています。伊都地区センターの設備が稼働し始めた平成19年度から本年度までのものです（本年度のデータでは、残りの期間については外挿をしたものです）。伊都地区では、平成19、20年度は立ち上がりの過渡的な期間ですが、その後、供給量の順調な伸びがみられます。これは、新規ユーザーの参入と既存ユーザーの需要の伸びによるものです。伊都地区での回収ラインの整備等の新しい基盤設備が、液体ヘリウムを使用した教育研究活動への支援につながることを示しているものと考えています。

これから移転を迎えられる部局のユーザーのみなさんにつきましても、これまでに整備してきました伊都地区での供給体制を維持・発展できますように準備を進めてまいります。また、移転の間中でも、現在の箱崎地区センターでの供給業務（理学系移転後は液体窒素供給のみとなります）も継続していく予定です。今後とも、皆様方のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

低温センター長 船木 和夫

